

地元の人々とともに 郷土の歴史を知る喜び

副会長 斉藤文孝 (さいたま市)

私の所属している大宮郷土史研究会は会員間の親睦をはかりながら郷土の歴史を学んでいます。そして会員の研究成果を発表したり、見学会などを行ったりしています。

中でも会活動の重要な要素を占めているのが「共同調査」です。共同調査とは、毎年テーマを決めて神社・仏閣の石造物や絵馬などを調査することです。そして『新編武蔵風土記稿』などの文献や古文書を調べながら歴史的にとらえ返し、それを会報『大宮の郷土史』に発表します。たとえば中山神社(さいたま市見沼区中川)を調査したとき、大宮氷川神社元神主の岩井家(ご当主は当博物館友の会会長の岩井隆興氏です)の文書に、中山神社の元禄12年(1699)境内絵図があることがわかりました。その絵図を見ると、男體社・女體社・火王子社などの社殿が、江戸時代の大宮氷川神社と同じように配置されているのです。そして大宮氷川神社では延宝3年(1675)に清祓に祭り替えされてしまった鎮火祭が、中山神社の絵図には鎮火祭をおこなう祭祀場所の「火塚」として描かれていました。(一時中断したとはいえ、中山神社ではこの鎮火祭を今でも続けています)

こうして中山神社は大宮氷川神社の江戸時代の社殿配置や江戸初期の祭祀形態(鎮火祭)を今に残す貴重な神社であることが明らかになったのです。このことを例大祭の直会で報告したところ氏子の皆さんに大変喜んでいただき、拍手大喝采を受けました。(詳しくは『大宮の郷土史』33号をご覧ください。さいたま市の図書館で閲覧できます)

また、円空仏で有名な薬王寺(さいたま市見沼区島)では、薬師堂が長年の風雪に耐え兼ねて傷みがひどくなり、信徒の皆さんから建て替えの話が持ち上がっていました。その時、当会の顧問であり数多くの建造物を調査されてこられた青木義脩氏に、薬師堂の調査をお願いしたところ、この薬師堂は正面側面三間の円柱の仏堂で、坂東や秩父札所などに数多く建てられている三間仏堂に相当する仏堂であること、そしてそれが18世紀後半の時期に一大流行して建てられたものの一つであることが分かり、非常に価値のある仏堂であることが判明したのです。このことを信徒の皆さんにご報告したところ、「それほど価値のある建物か」と驚かれ、薬師堂再建を改めて考え直す機会となりました。(『大宮の郷土史』37号参照)

このように、共同調査を通して建物や仏像・祭礼などの歴史的価値が改めて明らかになることにより、地元の皆さんとの結びつきがますます強くなったように思われます。それが私たち大宮郷土史研究会にとって一番の喜びです。郷土史研究とは、地元の人々が守り続けてきた文化財の歴史的価値を少しでも明らかにし、文化財を守る喜びを、ともに分かち合うことのように思われます。

(大宮郷土史研究会)

お知らせ

今後のイベントスケジュール

*申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 6月16日(土) 見学会「岩槻・忍城 落城物語り」 <前号で紹介>
- 7月6日(金) まち歩き研究会「蓮の花咲く伊佐沼から川越城へ」 <今号で紹介>
- 7月15日(日) 講演会「鎌倉期武蔵の街道と人・モノ・文化」 <今号で紹介>
- 7月18日(水) プレミアム講座「みる・よむ・調べる埼玉の古文書」 <今号で紹介>
- 8月26日(日) 日本の祭り研究クラブ「下名栗諏訪神社獅子舞・飯能市立博物館」 <次号で紹介>

友の会通常総会を開催しました 2018年(平成30年)5月27日(日)

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会通常総会を2018年(平成30年)5月27日(日)午前10時から博物館講堂で開催いたしました。

岩井会長のあいさつに続いて議事に入り最初に29年度活動報告について斉藤副会長より説明されました。今年は講演会と見学会が合計12回開催され、延べ参加者は1026名になっています。また、プレミアム講座も5回、延べ273名の会員が受講しました。クラブ活動も活発に行われ3クラブ合わせて延べ409名が参加しています。29年度収支報告については中村副会長より説明され、ともに承認されました。

新年度(平成30年度)事業計画案については西本豊司常任理事より説明がありました。今年度も年間を通して講演会、見学会を企画・開催する予定です。館との協力でプレミアム講座も行います。現在3つのクラブ活動の活動も支援していきます。組織的には昨年以来の集団的な運営体制を維持します。現在の会員数は550名前後ですが、今後も積極的に新規会員の加入促進を行う必要があります。ひき続き収支予算(案)について中村副会長より提案され、決定されました。

今年は役員の変更時期にあたりますが、昨年、任期中途から就任の岩井隆興会長を始め、副会長、常任理事、理事などの役員を決定しました(6ページに収支報告を掲載しています)。

・役員は以下の通りです(*は新任)。

- ・会長 岩井隆興 ・副会長 中村 均/斉藤文孝
- ・常任理事 犬走東道/上田彰一郎/西本豊司/筑井信明/元木 孝/山田貴和
- ・理事 岡本 浩/加藤陽子/河辺修造*/小林都子/斎藤紀子/高瀬敏男/滝沢由美子/
手塚 充/寺内慎一*/徳永憲郎/見富千恵子/山口清光/山本洋正
- ・監査 金子 栄/斉藤 亨

(友の会ではこの他にスタッフとしてサポーターに協力いただきます。よろしくをお願いします)

博物館・友の会・共催講演会「古写真で見る幕末・明治維新」

平成30年(2018)/05/27、総会後に開催



総会終了後、午後に行われた講演会は「古写真で見る幕末・明治維新」と題して、日本カメラ博物館・古写真研究員の井桜直美氏による古写真を通して日本の幕末明治期の政治社会情勢のお話しでした。いつもの講演会のような学術的なやや固い内容でなく、写真という具体的なイメージによる明治維新とその後の日本の発展を成し遂げた人物像の解説が中心。岩倉使節団一行のアメリカでの生活、帰国後の人生模様。松平容保や木戸孝允、大久保利通の素顔、戊辰戦争前後から写真好きの徳川慶喜のコレクションの数々、真贋分かれる徳川家茂の写真、西郷隆盛の顔の推理など、井桜先生もいってらっしゃったように150年前の明治維新は決して遠くない、現代に直結していることを感じさせる、まことに興味深い講演でした。(筑井信明 記)

博物館・友の会・共催講演会「土器から見た古墳時代の日韓交流」

平成30年(2018)/04/15に開催

「古墳時代の日韓交流の一樣相」の実態について駒澤大学教授酒井清治先生に資料の説明と解説をしていただきました。今回は日本列島・朝鮮半島で出土する古墳時代の土器に焦点をあて、初期須恵器の特徴や製作技法の詳細な研究、朝鮮半島の政治情勢による土器の形式、文様の変化、日本列島と朝鮮半島諸国間の交流関係や渡来人の実態にも迫った内容でした。

こうした須恵器製作技術の伝播および渡来人の動向と由来や経緯を探るうえで、従来から注目されてきた朝鮮半島東南部の動向と南西部の栄山江流域における土器の特徴とその地域性を踏まえた実証的検討を行い、各地域勢力の実態把握を通して、百済・加耶・新羅、そして倭をめぐる当時の複雑な交流関係の解明のお話をお聴きしました。私の感想ですが、今回の先生の講演会で、土器からみた古墳時代の日韓交流のいろんな話を聞けましたし、いろんな情報を収集することができました。須恵器研究の最新動向でもそうですけど、大事なことは、これらの知識や経験を自己満足で収めるのではなく、多くの方と共有することだとも思います。また機会がありましたら、今回学んだ知識に興味がある方と共有したいと思います。(上田彰一郎 記)



クラブ活動 (活動報告と募集案内)

毛呂山・鳩山町の史跡と文化財、新緑の鎌倉古道

友の会・まち歩き研究会 5月15日に開催



参加者は28名。東武越生線の川角駅に集合。県道(114号線)に出て少し左に進んだ細い農道の入口にも「鎌倉街道へ」の標識。ここから雰囲気は何となく古道になります。10分ほど田園地帯を進むと「鎌倉街道遺跡」の白い杭。今は使われていませんが、ここから高麗川方面に向かって鎌倉街道上道の本道があったことが発掘調査の結果わかってきました。そして、ここから先の、遺跡道の延長線上にある雑木林の中の掘割状の道路が現在に残る鎌倉街道というわけです。(略)

毛呂山町の歴史民俗資料館で、学芸員の方に街道のことやこれから見学する毛呂山町の文化財について解説を30分ほどお願いして、先を急ぎました。(略)

資料館を出てすぐの鎌倉街道の左右の林の中にも古墳が目につきます。川角古墳群です。古道を左折すると崇徳寺跡になり、さらに進むと3メートルを超える延慶の板碑(県重文)が現れます。(略)先の畑の中に2つの前方後円墳がありますが、奥にある古墳の上に、目指す合戦供養塔があります。正面には状態もよく立派な千手観音菩薩像が刻まれています。七夜待塔とのこと。今宿橋を越えて鳩山町へ。目の前がおしゃもじ山です。(詳しい内容はブログで)

◆ハスの花咲く伊佐沼から川越城へ◆

2018(平成30)年7月6日に「まち歩き研究会」

《期日》2018年(平成30年)7月6日(金) 10時00分～14時00分 約2時間程度の歩行になります

《集合》東武東上線・川越駅 改札出口 10時 集合

《費用》交通費各自 参加費用300円。他に博物館・本丸御殿入場料など 《持物等》飲物・お弁当など持参

《行程》川越駅から06番バスで伊佐沼入口⇒薬師神社⇒伊佐沼(古代ハス)⇒新河岸川⇒川越市立博物館⇒三芳野神社(堀跡見学、昼食休憩)⇒中ノ門堀跡⇒富士見櫓跡⇒本丸御殿⇒喜多院⇒仙波東照宮⇒川越駅

《申込・問合せ》①FAX: 048-470-2758 ②Eメール(筑井): pu8n-tki@asahi-net.or.jp

③「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームで。

鎌倉期武蔵の街道 と人・モノ・文化

中世の武蔵には、後に“鎌倉街道”と呼ばれる幹線道路が南北東西に走り、それらを通じて多くの人びとや物資が行き交いながら、文化の伝播にも大きな影響を与えていました。鎌倉時代を中心に、そうした街道が東国政権の成立と興隆に果たした役割を考えます

講師 **高橋一樹 先生** 武蔵大学人文学部 教授

日時 2018年（平成30年）7月15日（日）13時半～15時

場所 当館講堂 東武アーバンパークライン（東武野田線）
大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 300円

お申込みは **往復ハガキ** に、①名前②住所③電話番号④イベント名⑤会員の方は会員番号—を明記。返信面に①名前②住所—を記入し、6月29日（金）までに「〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」へ。締切前でも定員150名を超えた場合はお断りすることがあります。当日は往復ハガキの返信面をお持ちください。

*今回は「友の会ホームページ」にある「申込フォーム」でも参加申込みできます（ハガキは不要です）。

みる・よむ・しらべる埼玉の古文書

～古文書をみる楽しみ方入門～

今年度も学芸員の先生方の研究の一端に触れるプレミアム講座を開設します。初回は、7/14から始まる企画展に関連して、本県ゆかりの古文書を中世を中心に取り上げます。古文書に書かれた意味を正しく読解するために、形態や書式、花押も含めて全体を総合的に見ることはとても重要です。なかなか読みにくい古文書ですが、まずは「見る」ことから始めましょう。

講師の新井さんは、日本中世史(戦国時代)がご専門。この4月に文書館より異動され、今年度は学習支援と企画部門を担当されます。7月14日からの企画展「古文書 大公開！」は前任でのご担当ともつながり、より具体的にお話しいただけます。

講師 新井 浩文 氏 当館学芸主幹

とき 7月 18日(水) 午後1時半～2時半

ところ 当館講堂

ご参加無料

申込方法：他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。

通常ハガキに、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。

*「友の会ホームページ」にある「申込フォーム」でも参加申込みできます。

締切：7月11日までに、下記の宛先へ必着でお願いします。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。ご家族、お友達のご参加いただけます。

平成29年度収支報告書

自 平成29年4月 1日

収入の部					至 平成30年3月31日	
項 目	予算高	決算高	予算比	備 考		
前期繰越金	785,987		(単位千円)		資金管理明細	
年会費	1,100,000	1,068,000	▽32	資料一Ⅰ	(30年3月31日現在)	
半年会費	30,000	21,000	▽9		郵貯銀預金	1,488,680
事業収入	1,790,000	1,923,650	133	資料一Ⅱ		
雑収入	1,000	10,010	9		振替口座残高	169,000
小 計(ア)	2,921,000	3,022,660	101			
					現金	0
合 計	3,706,987	3,808,647				
支出の部					未収金	
項 目	予算高	決算高		備 考		
運営費関連					合 計	1,669,680
会議費	120,000	146,988	26			(力+キ)
旅費交通費	95,000	105,956	10			
備品・用品	150,000	122,325	▽27			
通信	700,000	650,272	▽49			
印刷	5,000	1,242	▽37			
交際費	10,000		▽10			
手数料他	1,000		▽1			
小 計(イ)	1,081,000	1,026,783	▽54			
事業費関連						
講演会	300,000	280,387	▽19			
見学会	1,270,000	1,465,350	195			
クラブ活動	30,000	30,000				
入会促進キャンペーン	100,000	89,947	▽1			
小 計(ウ)	1,700,000	1,865,684	165			
観覧券購入金(エ)	240,000	200,500	▽39	資料一Ⅲ		
積立金	200,000	200,000				
予備費	485,987	515,680	29			
合 計(オ)	3,706,987	3,808,647	101			
次期繰越高(カ)	685,987	715,680	29			
仮受金(キ)		954,000		資料一Ⅳ		
期中収支	3,022,660-3,092,967=-70,307					
	(ア)	(イ+ウ+エ)				

上記の通り平成29年度収支についてご報告いたします。

平成30年3月31日

会 計 代 表 中村 均
小林都子 滝沢由美子

上記報告書について、出納簿、領収書、収支決算書を厳正に会計監査を実施した結果
過誤なく適正に執行された事を証します。

監 事 齊藤 亨
監 事 金子 榮